

# 2011 霞ヶ浦帆引き船フォトコンテスト 入賞作品紹介 国内を代表するフォトコンテストに成長

審査員特別賞/霞ヶ浦河川事務所長賞



「雨が来るぞー」富永 藤一さん  
(さいたま市)

最優秀賞/教育長賞・ココロ賞 (小中学生部門)



「霞ヶ浦のかもめたち」  
植松 里菜さん (つくば市)

最優秀賞/市長賞 (風景の部)



「サンセット」田中 敏夫さん (土浦市)

市観光協会賞 (帆引き船の部)



「青空に映える」住吉 英一さん (岡山市)

11回目を迎える霞ヶ浦帆引き船まつり実行委員会主催のフォトコンテストに、総勢499点の応募があり、2月11日、土浦市民会館で入賞者の表彰式が行われました。県外からの応募も多く、同実行委員会の活動は、着実に霞ヶ浦や帆引き船を全国に浸透させていると同時に、帆引き船の保存承継に大きく寄与しています。

優秀賞・市議会議長賞



「朝の出漁」足立 幹夫さん (稲敷市)

霞ヶ浦漁業協同組合かすみがうら支部長賞



「夕日に映えて」橋本 昭三さん (柏市)

かすみがうら市商工会長賞



「湖上茜色」小山内 修身さん (千葉市)

市観光協会賞 (風景の部)



「家路」加瀬 雅俊さん  
(かすみがうら市深谷)

審査員講評  
立木寛彦さん  
(日本写真家協会会長  
日本旅行写真家協会発起人理事)



同じテーマ・同じ被写体で10年間続くコンテストは大変珍しく、上位入賞作品の質がとて高いものになっています。  
今回の最優秀作品(表紙で紹介)は、2つの船の真ん中に太陽がドンと出ています。強い光を撮るのは難しいこと。絞るとモノトーンになり、それをどう生かすかがポイントです。この作品は、波と船の質感がとて良く出ています。



(左) 来場者を出迎えた今回の応募作品  
(右) 表彰状を手にする帆引き船の部上位入賞者

【パネルディスカッション抜粋】  
沓掛さん「観光マーケティングは、特定少数に投げかける観光になってきている。マスツーリズムの幻影から脱却しなければならぬ。帆引き船観光は食をテーマに、その時期にこないと食べられない生のワカサギや白魚を提供してはいかがか。帆引き船でとれた魚は少し高めの値段にしてもいいし、その内いくらかは帆引き船を守っていけるような取り組みに活用できるシステムにしてはどうか。また、ユニークな漁法とそれを伝承してきた地域なのだから、県全体のPRにもつなげるため、県の文化財に申請してはどうか。」  
水島さん「帆引き船のイメージはエコにつながる。いま、グリーンエネルギーは人の心を動かしやすい。帆引き船を関係する地域間自治体間の象徴としてとらえ、もつと広域的に組織化を進めるべき。『日本一水際線が広い』、『日本一空が広い湖』である霞ヶ浦を生かそう。」  
秋元さん「港と川が綺麗になると観光の後押しになる。帆引き船ファンクラブを作ってはどうか。そして、子どもたちにも水があるからおもしろいと言ってもらえるように、水の上で勉強して欲しい。いま、震災に備え、港を整備している。霞ヶ浦は液化化しないし、船はデコボコにならない道を進むことができる乗りもの。」  
細川さん「帆引き船が観光として長く続くために一番必要なのは、



パネルディスカッション  
秋元 昭臣氏 (パネリスト 専務取締役 株式会社アサヒ)  
藤原 俊之氏 (パネリスト 茨城県商工労働部 観光物産課長)  
桐原 泰弘氏 (パネリスト 茨城県企画部 地域計画課長)  
沓掛 博光氏 (パネリスト パネリスト 筑波学院大学講師 旅行ジャーナリスト)  
戸田 廣氏 (パネリスト 実行委員長 霞ヶ浦帆引き船まつり)  
水島 敏夫氏 (パネリスト パネリスト (株)旅行読売出版社 代表取締役社長 北方漁船博物館 理事長)  
細川 英邦氏 (パネリスト 公益財団法人みちのく 霞ヶ浦漁業協同組合 代表取締役 かつみがうら支部長)  
桜井 謙治氏 (パネリスト オフサバパ 霞ヶ浦漁業協同組合 かつみがうら支部長)  
芦川 智氏 (パネリスト コーディネーター 昭和女子大学教授)

## 未来へ出航! 霞ヶ浦帆引き船シンポジウム・写真展示会

2月11日、土浦市民会館にて霞ヶ浦帆引き船シンポジウム・写真展示会が開催されました。講演や専門家によるパネルディスカッションでは、貴重な地域資源である帆引き船の観光としてのあり方やその保存承継活動などについての意見が交わされ、大変意義のある機会となりました。

地域の方々に愛されること。それには、活動される方の活動の場や来訪者へ帆引き船を伝えることができる施設が必要ではないか。桐原さん「今は『食』を、体験する、学ぶが『新』を『言』られる。行政ではなく、その良さを知っている皆さんに魅力を発信していただきたい。ブルーベリーや栗などのグルメをセットにして発信力を高め、近隣のアウトレットからどのようかを呼ぶかを考えることを考えてみては。」  
藤原さん「かすみがうら市への来客は県全体の約1パーセント。帆引き船を観光として見た場合それだけで成り立つかの検証も必要。帆引き船の付加価値、ストーリーがあってもよいのではないか。」  
戸田さん「取れた魚をプレゼントしたり販売するなど、『見せる帆引き船』から元々の役割であった『魚を取る帆引き船』のイメージも付加することも大事ではないか。」  
櫻井さん「帆引き船の漁は非常に大変な仕事。エンジンなどのトロール漁船に変わり、帆引き船がすぐに観光化されたが、こんなに長く続くものとは思っていません。しかし、世界に唯一の船だと知った時、頑張つて残してこようと活動されている意味がわかった。後継者問題を考えるのは今しかない。できることは協力したい。帆引き船乗船観光も長く時間をかけ、取れた魚を食べ



基調講演をする柳生博氏

「確かな未来は懐かしい風景にある。帆引き船を絶やさないでほしい。懐かしい風景がなくなったら取り戻せばいい。」と自らの体験から想いを伝える柳生さん。  
「市長あいさつ」  
懐かしい原風景を未来に残しておくことが私たちの務め。今回は、帆引き船が未来へ出航するためのきっかけとなった。いただいたご意見は、前向きに取り組んでいきます。  
【市長あいさつ】  
参加者「いつも撮影に熱中しているばかりだったが、のんびりとした霞ヶ浦の楽しみ方を提案していただくのもいいと思う。」  
芦川さん「広域的な組織化や漁師としての人材確保のため、かすみがうら市の職員を全国募集し、何年間か育ててみてはどうか。また、女性職員のチームを作つてアイデアを出してもらおうのもよい。」